

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ほろむい(たのし荘)	評価実施年月日	平成21年7月1日～平成21年7月31日
評価実施構成員氏名	小澤 里美・勝田 弥枝子・馬場 さとみ・松井 奈美・高橋 美加子・荒 光恵 たのし荘		
記録者氏名	小澤 里美	記録年月日	平成21年8月6日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念としては、「安心して暮らすということ。」「自分らしく生きるということ。」を主として掲げており、その理念の次ぎに来る文章として“地域に密着し近隣の人とふれあい、自然とふれあい、仲間がいて、語り合い、笑顔が生まれる。”という文言を添え、理念をより一層具体的に表している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>常に理念を念頭に置き具体化して行く様、スタッフ全員で取組んでいる。</p>		<p>新入社員には理念を基本にし介護業務にあたってもらう様指導している。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>開設時、町内の集会に出向いて、地域の方々へのご説明及びご理解を得ています。また、新しく入居される際には、本人及び御家族に地域の中で暮らすことの重要性をお話しさせていただき事を継続し、運営推進会議の中でも、民生委員・町連会長・地域包括支援センター長の方々にアドバイスを頂きながら、新たな地域への関わり方や協力を相談している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>当ホームに対して近隣からの認知度が増し、散歩や行事・買い物時、近隣の方より挨拶や会話をされたり、花などの球根や種などを頂いたり、居室の窓越しに会話を楽しんだりする事が増えている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入しており、地域で開催される、ぼろもいフェスタや盆踊りなど、幾つかの地域行事等にも参加している。</p>		<p>地域の催し物だけでなく、町内会で定期的に行われている、草刈りや花壇の手入れなどにも積極的に参加していきます。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>今までに数回、町内会に出向き「高齢者介護について」の講義などを行っています。また、グループ内の居宅介護支援事業所を通じ、高齢者介護について地域の方への情報発信を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>スタッフ全員で自己評価を行い、具体的な改善に対しては全員共通した考えで取り組んでいる。</p>		<p>外部評価での結果をホーム長会議にて話し合い、その結果を各ユニットミーティングで報告し改善点は具体案を検討し実践に努めている。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に一度、定期的に運営推進会議を行っており、地域に根ざしたグループホームのあり方等を念頭に置き、会議出席者の方々との話し合いで、出された意見を活かせるよう努めています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議の議事録やグループホームのお便りを届けたりと、こまめに顔を出し、その都度、運営上の疑問点や問題点などを話をさせていただき、市との繋がりに努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>対応者がいる場合、随時、介護支援専門員にアドバイスを受けながら支援している。</p>		<p>今後、職員全員理解が出来るよう介護支援専門員の協力のもと、勉強していきたいと思う。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>随時、研修の機会があれば参加し、研修資料等を用いながら周知されている。</p>		<p>大まかなことしか理解できない職員もいると思われる為、今後カンファレンスなどでも勉強し、浸透させる取り組みに努める。特に新入社員には、注意をして指導していく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>ご利用者やご家族に契約内容を時間を掛け解りやすく説明しており、その後に疑問点を話し合い、ご利用者やご家族に理解・納得していただいたうえで、最後に契約者・重要事項説明書に署名・捺印を頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常に入居者様の立場に立ち、生活の中からの言葉や行動などの状況を把握し意見を聞き日々の生活に活かしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	隔月でグループホーム便りを発行し、生活状態、行事などのお知らせすると共に、来荘時には、個々にお話をさせて頂いています。また、体調の変化はその都度、電話や来荘時に、ご家族様に状態・結果を報告しています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	設置した苦情箱やご家族様からの直接、意見・不満・苦情をいただき、その都度、施設長・管理者・職員で対応策を検討し、出来るだけ早く業務に反映させる。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・ホーム長会議にて各ユニットの問題点、新規申し込み者の判定、行事等の話し合いを行う。 ・ユニット会議はケアカンファレンスが中心となっている。		職員の意見・要望を聞ける様な関係作りをし、運営者に言いにくい部分もあると思われる為、ケアカンファレンス時に話し合い、ホーム長から伝える様にしている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な場合、管理者や職員間の話し合いで、シフト変更などで状況に合わせた勤務調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットスタッフは6名～7名からなり、基本的には固定としているが、異動や離職の場合に備え、外出行事や屋内行事などの全体行事を通じて、他のユニット利用者及び他職員との交流を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>職員によりストレスが違う場合もあり、何がストレスかオープンに言い合えるような関係作りを心掛けている。 定期的にユニットスタッフで食事会を開催している。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族に思い・状況の確認に勤め改善に向けての支援の相談を受けながら信頼関係を築く様にしている。 早急な対応を要する時は、可能な限り対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人・ご家族に見学に来て頂き、また、職員が出向いたりしてなじみの関係を築き入居して頂くようにしている。 早急に入居された時は、ご家族などに協力を頂き、ご本人が慣れるまで、来荘される機会を増やしていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人の思いを生活の中で分かち合い、支え合える関係作りに努め、ご入居者様の方々から教えて頂ける様な場面作りや、声掛けを工夫し、お互いが共同ができる生活が送れるようお互い協同で生活出来るよう努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の生活の様子や職員の思いを細かくご家族に伝え、また ご家族からの思いなどを把握し本人を支えて、支援するように努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の状況を見極め、外出・外泊等でご家族と過ごせるよう努め、両者の思いがちながら心掛けています。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の中にとけ込み交流が持てる様、支援しています。		散歩の仲間・知人・行きつけの美容院・店員さん等、断続的交流を持てるように配慮していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様が楽しく皆さんで生活できる様、また、それぞれの関係がうまくいく様、職員が調整役になり、職員も一緒に行動し、日々円満に行くよう努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスや支援終了後も気軽に来ていただく様心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での言葉や表情などから真意を推測し、それとなく確め意思の疎通が難しい方にはご家族に情報を得て、本人がどの様に暮らす事が良いのかご家族を交え検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に訪問し、ご本人・ご家族との関係など生活状況を確認し、入居後もご家族の来荘時に確認したりと努めている。またプライバシーに立ち入る事が無い様配慮している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ここの生活リズムを理解し、生活・心理面の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族に日頃のかかわりの中で意見や思いを聞き反映し、アセスメントを含めて担当職員・介護支援専門員とカンファレンスをし、意見交換・モニタリングを行っている。自分らしく暮らして頂くよう、介護計画の制作に努めている。		柔軟かつ臨機応変に介護計画を変更したり、安定されている方も定期的に現状を、ご本人・ご家族の意向などを確認し支援にいかして変化に速く対応する為の見直しにも努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		細かい生活状況や個別ケアをし職員の工夫や気づきを生活経過表に記載している。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	提携しているクリニックドクターの定期的な訪問診療を受け、24時間連絡体制が取れており、緊急時に素早く対応できる体制を整えている。 また、ご本人、御家族が希望するかかりつけ医への受診にも対応している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門ドクターはいないが、ご利用者・心療内科のドクター・ご家族・職員と、ご利用者の情報を共有しながら、内科医に受診・往診・治療・処方を受けられる支援を行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師1名・准看護師2名が勤務している為、掛かりつけのドクターまたは提携クリニックのドクターに健康管理、状態の変化など随時相談し支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には必ずお見舞いに行き、ご利用者の状態把握し、ドクター・相談員及びご家族とコンタクトを取り、情報を共有しながら早期退院及び退院後の受入れ体制などを相談し連携をしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	一般状態に異変が見られる時は、今後の方向性を兼ね、常にご家族に報告や意見を聞きながら、必要時にはドクターよりのムンテラ(説明)をして頂き、今後、重度化・終末期の対応をどうするかを、ご家族・ドクター・看護師・介護スタッフと相談・検討し対処している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ターミナルを迎えるにあたり、施設側でご利用者が混乱無く、安心して過ごせる為の準備検討を、ドクター・看護師・介護スタッフと連携を取りながら、ご家族と話し合い支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>今後の暮らしの継続が損なわれない様、環境・支援・注意点について情報提供し連携に努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして本人を傷付けてしまわない様、目立たず、さりげない言葉掛けや対応に配慮している。 他のご家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関することを話さない事を徹底している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者に合わせて声掛け、意思表示が困難な方には表情を読み取ったり、品物を見せたりし、本人が決める場面を作っている。</p>		<p>利用者の希望・関心・嗜好を見極め、それを基に日常の中でご本人が選びやすい場面づくりをしていきたい。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、起床・就寝・食事時間等はご本人のペースに合わせて時間を区切った過ごし方はしていない。</p>		<p>買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応に取り組んでいる。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>着替えは、なるべく本人の意向で決めていただき、身の回りの支援が必要なときに手伝える体制をとっている。 訪問美容にて、ご本人の希望に合わせたカットや毛染めを行える様、連携を整えている。</p>		<p>ご本人の体力や当日の身体状況に応じて、施設外の希望する理美容店や送迎を行なっている。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>楽しく食事ができるように、味付けや盛り付けなどの意見を聞いたり、片付けなど可能な限り職員と一緒にやっている。</p>		<p>その時期の旬な食材を食したり、行事ごとや体調・病状に合わせて、メニューを工夫して行っている。 スタッフと一緒に外食を楽しむ機会がある。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好物を理解し、ご本人の様子や時間を見ながら楽しめるよう対応している。タバコについては、ご本人同意のもと職員に預からせていただき、他のご利用者の迷惑にならないよう気を付け、換気の良い目の届く場所で喫煙できるよう配慮している。		掛かりつけ医と相談をしながら、一人ひとりの健康状態や好みに合わせて支援をしている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ご本人の排泄の時間や習慣を把握し、トイレ誘導を行っている。		ご本人のサインを把握し、失敗してしまった場合でも、他の方に気付かれないよう配慮している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的な予定はスタッフが決めて入浴して頂いているが、ご本人のその日の希望や体調を確認しながら臨機応変に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく生活リズムを整えるように努めてはいますが、その日の体調や表情、希望を考慮して、ゆっくり休息をとれるよう支援している。		ご本人が安心して休息や睡眠がとれるよう、数日間の生活習慣や出来事などを考慮し、スタッフ間で話し合いながら支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の能力をいかせる様に、出来そうな仕事を支援し、最後に感謝の言葉を伝えるようにしている。 また、外出や遠出の楽しみごとを、ご利用者と相談しながら行っている。		体調に合わせ、庭の手入れや洗濯物の整理などスタッフが見守りながら行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の了承を得て、ご本人に少額のお金を預け自ら金銭管理をしていただいている。 また、ご家族の希望により、事業所で金銭管理をしている方でも、外出事等は、ご本人に支払いをして頂ける様、お金を手渡す等の工夫をし支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節を感じてもらい、心身の活性につながる様、ご本人の体調や気分・希望に応じて、日常的に散歩や買い物・ドライブ等に出掛けている。 歩行困難な場合、重度化しているご利用者の場合も、車や車椅子等を利用し、本人に合わせた移動手段に配慮をしながら外出を支援している。		高齢・重度化に伴い、体力や意欲の低下により、外出を好まない方には、アプローチの方法を変える等の工夫をし、戸外へ出掛けられる様支援していく。 職員の都合を優先せず、個々の希望や習慣に配慮し、外出を楽しんで頂くよう支援する。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	遠くへの外出は、個々の体調等を考慮し、予め計画を立て職員の体制も調整しながら徐々に始めている。 「家に帰ってみたい」等の希望が出された時には、実現するための方策を職員同士で検討し、ご家族に協力を依頼する等して、実現する様に支援している。		利用者個々の思い出の場所や行ってみたい場所等の希望を出して頂けるように働きかけ、実現に向けた取り組みを行っていく。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話取次ぎを行い、電話を各居室へ持っていき、他利用者に会話が聞こえない様にし、プライバシーに配慮している。 手紙のポストへの投函の支援や、投函の代行等、ご利用者の希望に応じた対応をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪者が気軽にこられる雰囲気づくりを心掛けている。 訪問時間等は定めておらず、ご都合の良い時間に訪問して頂けるように配慮している。 来訪者が居心地よく過ごされる様、明るく笑顔で挨拶を徹底している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が身体拘束行為、又は利用者が身体拘束によって受ける身体的・精神的弊害について理解し、身体拘束は一切行わないケアを行っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の施錠は行っておらず、利用者が外出しそうな様子察知したら、さりげない声掛けを行い、一緒について行く等、安全面に配慮し自由な暮らしを支援している。居室も施錠せず、職員の見守り方法を徹底し、個々の状態や気分を見極め支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、ご利用者と同じ空間で、さりげなく全員の状況を把握する様、作業等を行っている。居室に居る入居者には、プライバシーに配慮しながら声を掛けたりし、安全の確認を行っている。 夜間は、2時間ごとにラウンドし利用者の様子を確保すると共に起きられた時に、すぐに対応できる様、細心の注意を払い対応している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全てを取り除く事はせず、利用者個々の状況変化によって、注意が必要な物は何かを職員が把握し、管理の取り決めや、注意を促していく等、ケースに応じた対応をしている。		包丁の入っている棚・食器等が入っている戸棚・はさみやカッターが入っている引き出しは錠が取り付けられており、状況により施錠が出来る様になっている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の状態から予測される危険を検討し、職員間で確認を強化して事故を未然に防ぐよう、取り組んでいる。 ヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。 事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	スタッフ全員、消防署の協力により普通救命講習(Ⅱ)を受講し、応急手当・AEDの使用方法を理解している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	非常灯設置、災害時の避難経路、場所、担当が決められ、年2回の消防訓練を行い内1回は消防職員立会いのもと、全体避難訓練を行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	さまざまな役割活動や外出、体調の変化により、個々に起こり得るリスクについて把握し、ご家族に具体的に説明をし、話し合い、理解と協力を得るよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	些細な変化でも気付いた時にはすぐにバイタルチェックを行い、管理者へ報告・記録をし、職員間で共有している。 特変事には速やかに医療受診につなげている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤の早見表を個人ファイルに綴っており、全職員が内容を把握出来るようにしている。 薬剤変更による状態変化時は記録し、管理者へ報告している。 服薬時は飲み込むまでの確認をしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分量を把握し、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。 排泄の状況も記録し、表でわかる様にしている。 個人差はあるが、散歩や運動を働きかけている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、一人ひとりに気持ちに配慮しながら、力に応じた介助や見守りを行っている。 就寝前に義歯を翌朝まで預かり洗浄を行っている。		口腔ケアの重要性は全職員が理解しているので、研修等で肺炎を予防するキチンとした技術も身に付ける様にしていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士による献立の提供とカロリーや栄養バランスの管理を行っている。 一人ひとりの嗜好も尊重しながら、コレステロールや血糖値の高い方には調理の工夫をしている。 水分量も記録し、職員が情報を共有して脱水防止を心がけている。		PEG設置者もゼリーやアイスクリーム等のトロミのある物を利用し、できるだけ経口摂取できるよう配慮している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する情報収集を行い、マニュアルを作成して全職員が共有して、予防対策に努めている。 ご利用者・ご家族に同意をいただき、ご利用者・職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。		感染症対策・予防として手洗いの徹底、ペーパータオルを使用。食器・洗濯物・トイレの消毒・清掃時の消毒も徹底している。 また、ご利用者・ご家族にも、その旨を伝え協力をお願いしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>手洗い・消毒の遂行、調理用品と布巾の漂白、毎日夕食後の食器の消毒の施行、冷凍・冷蔵庫内の食材のチェック・掃除・消毒の徹底をしている。</p> <p>食材はその日に使い切る様にし、鮮度の悪い物は処分している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関のドア上部にユニット名の案内板を掲示しわかりやすい言うにしている。</p> <p>庭先には、テーブル・ベンチ・椅子を設置している。</p>		<p>明るい雰囲気のある玄関になるよう、お花や手作りの品を掲示したり、季節を演出していきたいと思う。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者にとって使いやすい配置や家庭的な雰囲気を意識して共有の空間を工夫している。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>利用者個々の状態の変化、利用者同士の関係性などに配慮した居場所づくり、環境づくりを心掛けている。テレビの位置、ソファの位置など困らん出来るよう配慮している。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>たんすや椅子以外にも、それぞれの利用者の好みや馴染みの物、寝具類等、生活スタイルに合わせて用意している。</p>		<p>居心地よくプライバシーを大切に安心して過ごさせる居室の環境作りを心掛けていきたいと思う。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>フロアは掃除時、一定時間帯に換気をしており、冷暖房は常温±5℃を基本に利用者の発汗の様子や冷え等に注意して調節する様になっている。</p> <p>居室での排泄処理時、換気を行い悪臭が出ないよう消臭剤を利用したりと工夫している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレなどの居住空間が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人にとって「何が分かり難いのか」「どうしたらご本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。 状態が変わり、新たに混乱や失敗が生じた場合はカンファレンスを行い、ご本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダに花を植えたり、畑のスペースを確保し、ご利用者が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている。 庭先には、テーブル・ベンチがあり日向ぼっこができるよう工夫している。		戸外で焼肉などをしたり、食事できる楽しみに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ご家族の方が気軽に来やすい雰囲気作りを心掛け、職員は挨拶、言葉づかい、対応の仕方に気を付けている。
- 利用者が楽しく笑える環境づくりを大事にしたいと思う。